

(仮称)公益財団法人小平市文化振興財団第1次経営計画(原案)に対する意見募集の実施結果

1 実施の概要

期間	令和4年12月26日(月)～令和5年1月25日(水)	
意見募集者数	3人(意見の件数11件)	
提出の方法	持参	1人
	送付	0人
	ファックス	0人
	メール	2人

2 意見等に対する対応状況

反映済み	0
反映する	3
反映しない	0
参考意見	8
その他	0

意見等は、基本的に原文のとおり記載しています。

3 意見等への対応

番号	意見等	検討結果	対応
1	全国的に見て吹奏楽での活躍は大変目を見張るものがあります。それを取り上げてもっと大々的にやるのがベストかと思います。ですが、ややもすると部活では、親戚知人止まりで、訴求力から見ますと全市を挙げて行くには若干役不足の感は否めません。	「吹奏楽のまちこいだいら」をさらに推進するため、吹奏楽の魅力に興味を持つきっかけになるような良質な演奏会や、小学校、障がい者施設への出前コンサートのほか、演奏する楽しさを体験できるプロの演奏家による楽器クリニックや合同演奏会を計画してまいります。	参考意見
2	現在までの企画内容を見ていると、他の三多摩地区の企画と遜色は無いと考えますが、今一つインパクトに欠けます！総花的な催し物としてのラインナップでけん引するには、もう少し考えたやり方があると考えます。	今後も、多くのお客様に楽しんで、感動していただける催し物を企画、開催してまいります。また、令和5年度は小平市民文化会館の開館30周年を記念し、祝祭感あふれる華やかな事業を実施してまいりますので、多くのお客様のご来館をお待ちしております。	参考意見
3	安定した財団運営には、市からの援助の他、協賛金、チケット収入がありますが、市民に還元するには、もっとアイデアを出して取り組む必要性を感じます。	法令に基づき公益法人として適正な会計処理を行うとともに、年毎の催し物などの開催により得た当財団の収益を、将来の周年事業や大規模な催し等の実施に備えるため「特定費用準備資金」や当財団の活動にご支援いただく「寄付金」の制度を活用した経営基盤の強化に取り組んでまいります。（9ページ下段の主な取組に「寄付	反映する

番号	意見等	検討結果	対応
		金」の記述を追加しました。)	
4	指揮界の巨匠であります“炎の指揮者”小林研一郎氏に白羽の矢を当てます。彼をホールのアドバイザーに就任して頂き、小林研一郎企画を推し進める。かてて加えて、コバケンとその仲間たちオーケストラをメインに置き、「第九」を始めとして、レクチャーコンサート、小中を対象とした初めてのクラシック公演、障がい者を持った方々の為のコンサート、老人施設や幼稚園へのアウトリーチ活動、など多岐にわたって活動を行います。このコバケンとその仲間たちオーケストラには、目の見えない奏者が5人程活躍しており、また、打楽器奏者には耳の聞こえない奏者や知的障がい者も演奏しています。このオケのテーマは、「全ての人々が与えられた命を輝いて生きることが出来る社会作りを目標とする」事を謳っています。小平市民オーケストラとのコラボや合唱団とのコラボもすぐに出来ますし、それこそ三中や六中などの吹奏楽部との共演も可能です。毎年、日本フィルとの公演ではお馴染みになりましたが、コバケンさんのマイクを通じてのお客様とのコミュニケーションも話題です。	ご推挙いただきました指揮者の小林研一郎様は、令和元年に小平市民文化会館で開催されたフレッシュ名曲コンサートにおいて、渾身の指揮で観客を魅了した巨匠でございます。現在、当館で開催されるクラシック系コンサートにおいては、専門家をアドバイザーとしてお迎えする取組みは行っておりませんが、演劇なども含め、舞台芸術全般において経験豊富な識者から助言をいただくことは運営上有効であると考えております。今後は、当財団の運営を進める中で、その費用や効果などについて研究を進めてまいります。今後も、小平市民文化会館で開催する様々な催し物をご提案いただいたように、より質の高い文化芸術の振興を高め、多くのお客様のご期待に応えられるよう、運営に努めてまいります。	参考意見
5	定款、指定管理者としての数値目標、(仮称)小平市文化スポーツ推進計画などがあり、経営計画の存在が曖昧になりますので、図式で経営計画の位置づけを明確に示すのも一考だと思います。また、(仮称)小平市文化スポー	公益財団法人小平市文化振興財団第1次経営計画(原案)と市の計画の関係性がイメージできる概念図を2ページに追加するとともに、アーティストの舞台芸術を	反映する

番号	意見等	検討結果	対応
	<p>ツ推進計画はスポーツと文化を一体的に捉えております。スポーツには「する・見る・支えるスポーツ」があると言われます。文化振興においても「する(演じる)・見る・支える文化振興」といった考え方をすることにより、(仮称)小平市文化スポーツ推進計画ともリンクすると思います。また、公益財団として持続可能な運営を継続していくための独自性や安定した財源確保をアピールする必要があると思います。</p> <p>(例)…「する(演じる)・見る・支える文化振興」としてクラウドファンディング、ボランティアの育成など</p>	<p>「見る」、自らが主役となって「演じる」、将来の芸術家を「支える」文化芸術の環境づくりに努め、文化芸術の参画人口の拡大を目指します。(12ページ「7 経営計画の実現に向けて」に記述を追加しました。)</p> <p>また、法令に基づき公益法人として適正な会計処理を行うとともに、年毎の催し物などの開催により得た当財団の収益を、将来の周年事業や大規模な催し等の実施に備えるため「特定費用準備資金」や当財団の活動にご支援いただく「寄付金」の制度を活用した経営基盤の強化に取り組んでまいります。(9ページ下段の主な取組に「寄付金」の記述を追加しました。)</p>	
6	<p>全体的に文章が行政的な表現であり民間事業者として多様な市民の心をキャッチするフレーズがあると良いと思います。</p> <p>(例)…「非日常的な空間を創造します」など</p>	<p>本計画の趣旨を多くの方々にご理解していただけるよう「親しみ 支え 育み つながる」を本計画のイメージコピーとして、表題に添えました。</p>	反映する
7	<p>経営計画をはじめ各種の事業をインフォメーションするだけでなく、多様な市民に財団のメッセンジャーとして事業内容などをより確実に伝えたり、ニーズを把握する TO COMMUNICATE する人材の育成も肝要と考えます。</p>	<p>小平市文化振興財団では、毎年、鑑賞モニターを募り、ルネこだいらの催し物の感想を伺い、当財団の運営に生かす取組みを進めています。近年は、文化芸術の情報発信</p>	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
	(例)…一般市民・活動団体からボランティアを募り TO COMMUNICATE 研修の実施など	手段として、インターネットはもとより、多様な形態のSNSが普及し、人と文化芸術の関係性が瞬時に双方向で共有できるようになりました。今後も、当財団の催し物や活動が広く市民等に伝わるよう、ご指摘の視点も踏まえ、SNSなども活用しながら、運営に努めてまいります。	
8	<p>計画を策定する前提として、だれが計画を策定するメンバー(board)としてふさわしいか、そして、どのようなスキーム(会議の頻度や議論の内容、手続きの手順)で行うのかふさわしいのかを検討する必要があります。今回策定する「経営計画」に関して、メンバーおよびスキームが明示されないままに、計画案が理事会に報告事項として提示されたことについて、違和感を覚え、先日の理事会で質した次第です。</p> <p>メンバーやスキームが整理、提示されないまま、財団の経営計画案を公開し、意見募集を行なっていますが、まずは、財団にとって初めて策定する「経営計画」の策定の仕方そのものを整理して、評議員会や理事会に諮るべきと考えます。</p>	<p>本計画は、当財団の設立30周年の節目を契機として、これまでの間、主に定款に定めた目的を根拠として各種事業を計画・実施してきたプロセスを発展させ、当財団の取組姿勢を新たに「経営計画」としてまとめることにより、定款と年間計画の橋渡しや、小平市民文化会館や小平ふるさと村で催し物を検討する際の前提条件となるよう、5つの運営方針と各方針の基本姿勢や主な取組を掲げています。本計画の策定にあたっては、30周年を迎える本年4月からのスタートを目指して、あらかじめ本計画の推進主体となる当財団の事務局が原案を策定した上で、理事会や評議員会においても事前に報告の上、ご意見やご提案もいただきながら策定を進めております。今</p>	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
		<p>後も、当財団の組織を構成する評議員、理事、監事や事務局が連携しながら、新たな計画を策定してまいります。</p>	
9	<p>本経営計画は、5年間という期間を設定しての策定するものです。だとするならば、今後5年間で、財団を取り巻く経営環境がどのようなものであるかを、予測分析し、この中での経営課題を抽出、整理することが求められるはずだと考えます。計画案では、この視点が欠けているのではないのでしょうか。</p> <p>経営環境として例えば、with/after コロナでの生活様式の変化とりわけ余暇活動の変化にどう対応していくかという外部環境の問題、また、数年前から問題となっているルネこだいらの老朽化や大規模改修の必要性といった内部環境の問題とどう向き合っていくか等が挙げられます。とりわけルネこだいらの躯体は“経営資源そのもの”であるため、小平市と一体となって課題解決にむけた議論と対応が必要となります。このように経営課題について5年間どう向き合い、どう取り組んでいくかが経営計画の肝となると考えます。このような視点を、経営計画に是非盛り込んでほしいと思います。</p>	<p>本計画では、主に理念に掲げた小平市域の文化芸術の振興を図り、すぐれた文化芸術事業を市民へ提供するため、催し物の企画、歴史や伝統芸能、担い手づくりや施設の維持管理など当財団を取り巻く現状と課題や環境の変化も踏まえて5つの運営方針を掲げています。特に令和元年度の終わりからは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、臨時閉館（園）や催し物の中止など市民等の文化芸術活動を大きく縮小せざるを得ない期間が続き、今もなお、その影響から脱することができない状況ですが、施設の維持管理の課題も含め、都度当財団の運営状況については、評議員会や理事会に諮りながら議論、ご意見やご提案をいただきながら可能な限り課題の解消に努めてまいります。</p>	参考意見
10	<p>向こう5年間の経営目標について入場者数や満足度を指標に掲げていますが、現状ですすでに高い数値となっており、伸びしろには限界があります。既存の指標にとらわ</p>	<p>文化芸術は、数値の多少をもって優劣や成果を評価するだけでははかれない魅力や素晴らしさがあります。一方で当財団が指</p>	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
	<p>れるのではなく、上記の述べた経営課題の抽出・整理から、新たな経営目標の指標を再検討すべきと考えます。</p>	<p>定管理者として管理・運営する小平市民文化会館や小平ふるさと村の現状や健全性をはかり、業務の改善や見直しに反映させるためには、一定の指標を定点観測することが肝要です。本計画では、これまで採用した指標の結果を確認した上で、各施設の年間入場（園）者数やお客様の満足度は、引き続き経営目標の目標値として取り入れるとともに、市の収入に直接影響がある施設使用率を新たに目標値に採用し、コロナ禍で影響を受けた施設の使用状況を市と情報共有するとともに、管理・運営の改善に役立ててまいります。</p>	
1 1	<p>「健全な組織体制」について言及されていますが、組織体制＝職員体制との記述となっています。財団の組織体制には当然、評議員会、理事会も含まれるものです。近年は、企業等においても経営におけるガバナンスの強化が進められており、財団等でも評議員会、理事会などのガバナンスの強化が求められる。この視点も経営計画に盛り込むべきと考えます。</p>	<p>当財団の組織を構成する評議員、評議員会、役員や理事会については、法令等のほか、当財団が定めた定款において運営のルールが定められております。ご指摘のガバナンスの強化の視点につきましても、法令等や定款に基づき、適切に対応してまいります。</p>	参考意見